

# 渚の交番準備事業(山口・下関) 事業内容詳細

## 1.事業名

### 【角島っ子クラブ】

※ 角島っ子クラブとは、トレッキング、野外料理及び海の体験プログラム等角島の自然体験プログラムの総称です。

### 1-1.事業概要(参加者への案内)

#### ● 目的

角島の自然の中で、海を中心とした野外プログラムを通し、自然に感謝出来る健全な心を育成します。本プログラムを通して笑顔の溢れる、島の将来や地域活性化を担うことのできる子供たちを育むことを目的としました。

#### ● 事業予定

- ・角島ビーチクリーン
- ・大浜ビーチクリーン
- ・角島トレッキング
- ・流木を利用した瓦そば(下関郷土料理)料理体験
- ・海の体験プログラム

※ プログラム詳細は別紙参照

- 事業実施場所:角島コバルトブルービーチ及び角島大浜海水浴場
- 開催日:平成 29 年7月1日(土曜日)
- 時間 :9時~15時

### 1-2.実績報告

#### <当日の参加人数>

角島っ子クラブ 参加者 15名(子供 11名、保護者3名、大人2名)

ビーチクリーン 参加者 38名

NPO スタッフ 6名

## <事業内容>

### ○ 内容

- ・ビーチクリーン(コバルトブルービーチ・大浜海水浴場)
- ・郷土料理体験
- ・角島トレッキング
- ・海の体験活動(クリヤカヤック・SUP)

### ○ 当日の様子と感想

#### 【ビーチクリーン】

地域住民の方々とNPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブで以前から取り組んでいた角島の清掃活動で、ビーチクリーン終了後は、採集した流木等の木材を燃料として、ダッチオーブンで下関の郷土料理である瓦そばを作りました。清掃活動により汗を流した参加者たちで、角島の自然の中で心とむひとときを過ごしました。

#### <ビーチクリーン①>



#### <ビーチクリーン②>



#### <流木で作る郷土料理(瓦そば)体験①>



#### <流木で作る郷土料理(瓦そば)体験②>



## 2.事業名

【夏休み子供海の体験教室「ジュニアライフセーバー体験」】

### 2-1.事業概要

- 目的  
ビーチ活動プログラムを通し、ライフセービング体験を通し、自然に感謝することが出来る、笑顔溢れる子供たちを育てる。
  - 事業予定
    - ・離岸流等ビーチでの危険性、危険行為などの講習
    - ・海辺パトロール、トランシーバー体験
    - ・レスキューチューブ、レスキューボード、素潜り、サバイバルスイム体験
    - ・集合写真撮影※ 当日プログラムは、別紙参照
- <番外編「川」体験>
- ・ライフジャケットの使い方説明
  - ・浮き方講習
  - ・ロープを使ったスイカ冷やし体験
  - ・川原バーベキュー
  - ・川冒険、キャニオニング体験
- 事業実施場所:角島コバルトブルービーチ
  - 日時:平成 29 年8月9日、11 日、16 日、24 日  
※ 番外編「川」体験は8月 20 日
  - 時間  
8月9日、11 日、16 日:13 時~14 時  
8月 24 日:11 時~12 時、13 時~14 時  
※ 番外編「川」体験 8月 20 日:11 時~14 時

## 2-2.実績報告

各日程の参加人数を表.1に示す。

表.1 各日程の参加人数

日程		参加人数(人)	備考
8/9		—	台風の影響により中止
8/11		7	
8/16		1	
8/20		2	
8/24	午前の部	8	
	午後の部	7	
参加者合計		25	

## <各日程の内容>

### ○ 8月11日

#### □ 事業内容

- ・ライフセービング紹介
- ・離岸流の見分け方、海の危険行為等の指導
- ・無線機を使用して監視本部との連絡体験
- ・離岸流への入水体験
- ・レスキューチューブでの救助方法や引き波の強さ体験等

#### □ 当日の様子と感想

当日は、台風の影響がまだ強く、海は白波の影響により、カレント(離岸流)の影響も強く、開催地のコバルトブルービーチでも、遊泳を見合わせており、膝下のみ海への立ち入りを許可した状況であった。今回のような海の状況下こそカレントの危険性や波の怖さを子供たちに知ってもらう機会であると考え、安全には細心の注意を払う事を前提条件として開催を決定した。

#### <パトロール体験>



#### <無線機体験>



#### <離岸流での体験>



○ 8月16日

□ 事業内容

- ・ライフセービング体験
- ・素潜り教室
- ・サバイバルスイム体験
- ・ビーチラン

□ 当日の様子と感想

小学校6年生の男の子1名のみの参加であった為、マンツーマンで様々なライフセービング体験を行うことが出来ました。参加者の男の子は、この体験を通してライフセーバーに関心を持ち、保護者から感謝をいただく事が出来た。素潜り教室で使用した貝殻は参加した男の子に、角島の体験記念としてプレゼントしました。



○ 8月24日

□ 事業内容

・レスキューチューブ、レスキューボード体験

□ 当日の様子と感想

今回は、午前の部、午後の部と2回に分けて開催した。今回のプログラムでは、実際に救助者がライフセーバーからどのように救助されるのかレスキューチューブとレスキューボードの2種類の機材を使用して子供たちに体験してもらいました。

参加した子供たちの保護者の方々は、救助器材を子供たちに触れさせる体験イベントに強い関心を持ち、「次回はいつ開催するのか」、「友人のお母さんと子供たちとまた参加したい」と感想をいただく事が出来ました。また、「自分の子供が海で溺れた際、我が子の為に助けに行くためにはどうすれば良いのか」等、救助に関する様々な質問をいただきました。今回の参加者との救助体験を通して、ライフセーバーたちも遊泳客との繋がりをより身近に感じる事が出来ました。

<救助器材の説明>



<レスキューボード体験>



○ 8月20日 ※ 番外編「川」体験

□ 事業内容

- ・ライフジャケットを利用した体験講習
- ・ライフジャケットでの安全な浮き方、川での流れ方講習
- ・ロープワーク体験

□ 当日の様子と感想

夏休み海の体験番外編として、夏休み子供「川の体験」を福岡県英彦山川で行いました。今回は、ライフジャケットを使用した体験講習となっています。これは今後、フィールドを川に移行した場合を想定して行いました。

参加者は、幼児2名であったため、子供用のライフジャケットを着用させ、川での安全な浮き方（背浮き）、川での流され方（川では頭を下流に向けると岩に頭部をぶつける恐れがある為、足の方から流れるような体勢にする。岩などに接触するときは足で岩などの障害物をけることで方向転換や体制を整えることが出来る。）の講習を行いました。また、スイカをロープで縛り、立木にそのロープを縛るロープワークを教えました。縛ったスイカは川に流し、昔は里山で頻繁に見られた懐かしい光景を再現し、参加者及び参加者の保護者と風流を楽しみました。



### 3.事業名

【夏休み子供海の体験「1泊2日キャンプ」in 角島】

#### 3-1.事業概要

- 目的
  - ・角島の自然の中で、海を中心とした野外プログラムを通し、自然に感謝できる健全な心を養い、笑顔あふれる子供たちを育て、島の将来や地域の活性化を担うことができる子供たちを育む。
- 事業予定
  - ・島の学び
  - ・ダイヤモンドテント運営
  - ・ドラム缶風呂
  - ・野外料理体験
  - ・島探索トレッキング
  - ・スノーケリング、モンスターSUP体験
- 事業実施場所:角島大浜海水浴場
- 日時:平成 29 年 8 月 26 日、27 日
- 時間:15 時～翌日 12 時

### 3-2.実績報告

#### <当日の参加人数>

1泊2日キャンプ参加者 10名(子供9名、保護者1名)

27日のみの1day キャンプ参加者6名

※ 参加費は子供 5,000 円、大人 3,000 円(角島っこクラブ参加者等は子供 3,000 円 大人 1,000 円で案内)

※ NPOスタッフ 5名

#### <事業内容>

##### ○ 8月26日(1日目)

###### □ 内容

- ・ オリエンテーション～島の学び(角島自然観)
- ・ ライフセービング教室
- ・ アイスブレイク
- ・ 秘密基地を作ろう(ダイヤモンドテント設営)
- ・ 野外料理体験
- ・ ドラム缶風呂体験
- ・ 灯台ナイトハイク～就寝

###### □ 当日の様子と感想

1日目は、「家」「食」「風呂」という3つの生活要素を子供たち主体に行い、スタッフはサポートするスタイルで始めました。キャンプでは、遊びが生活で有り、仕事が教育となる想定です。快適なテント設営や美味しい食事作りなどは、皆が協力し働かなければ形にならないなど、子供たちがこのキャンププログラムの中で、自分たちの役割を認識し、働く事、仕事を行うことの喜びを体験することが出来るプログラムにしました。

設営したダイヤモンドテントは、子供たちが10人で寝ることが出来る大きな家です。

説明書無しに、テントの形状から完成状態を想像し、互いに知恵を出し合い、ポールやロープを組み合わせ、試行錯誤の末テントを設営することが出来ました。夕食は、ダッチオーブンを使用し、収集した海岸流木を利用してカレーを作りました。鶏肉、野菜及びバターなどの材料を利用して炊き込んだパエリア風ご飯を作り、食事の美味しさに皆が驚いていました。ドラム缶風呂体験では、海岸の流木を利用して湯を沸かす風変りな風呂を楽しみました。また、参加者には、角島の自然を学んでもらうために、角島自然館に協力をいただき、地質、潮流、植物及び魚介類などに関してレクチャールームで講習を行いました。1日目の締めくくりとして、参加者全員で灯台ナイトハイクを行いました。

<オリエンテーション>



<角島自然観 島の学び>



<アイスブレイク>



<ライフセービング教室>



<ダイヤモンドテント設営>



<野外料理体験>



<ドラム缶風呂体験>



<灯台ナイトハイク>



## ○ 8月27日

### □ 事業内容

- ・ 朝食 ホットドックとグラタン作り
- ・ ビーチクリーン
- ・ 海の体験 スノーケリング教室
- ・ SUP体験

### □ 当日の様子と感想

2日目は、朝食作りから始まった。牛乳パックを燃やし、アルミホイルで包んだホットドックと缶詰グラタンを作り皆で食べました。朝食後は、島の方々やライフセーバーと共にビーチクリーンを行いました。

2日目のメインプログラムは、スノーケリングとモンスターSUP(通称デカ SUP)を使用した海の体験プログラムです。海面状況が厳しい時には、ニッパーボードなどで波乗り体験に変更するなど、そのときの天候に応じた柔軟な対応が出来る準備をし、当日を迎えました。スノーケリングは、インストラクター指導の下、ライフジャケットで正しく海面に浮く方法からレクチャーし、もしもの時は、安全に危険を回避できる方法を身に付けてから海へ入水しました。ライフセーバーが SUP を潮に流されないように配置し、男女2つのグループに分かれて体験を行いました。参加者たちは、角島の海の透明度の高さや潮流を心地良く楽しんでいました。

予定ではプログラムの終わりは自由解散となっていました。浜辺で修了式を行ったのですが、ちょうど正午であった為、希望者によりスキレットを使用して焼きそばを作りました。ニンニクと野菜が火で加温され風味が漂う、夏の海にふさわしい食欲をそそる焼きそばは大盛況となり3度も繰り返し作ることとなりました。そんな中で、人々の笑顔に包まれながら今回のプログラムを無事に終えることが出来ました。

<ホットドックとグラタン作り>



<ビーチクリーン>



<スノーケリング体験>



<SUP体験>



## 4. 事業名

### 【オーシャンマントレーニング教室の創設と運営】

※オーシャンマントレーニングとは、海を楽しみながら己を鍛え、より多くの人たちに海の楽しさを安心安全に伝えることができる能力を養うプログラムの総称です。

#### 4-1. 事業概要(参加者への案内)

- 目的

角島大橋周辺の魅力を体験型の観光資源を発掘、発信し地域を盛り上げるためには、海の楽しさだけでなく厳しさを理解した水辺の案内役が必要になります。本事業はビーチで行うランやスイムなどのトレーニングに加え、水上オートバイやレスキューボードをはじめ水辺の人命救助に関するツールの操作方法を学び、海の楽しさや厳しさを次世代に伝えることができるような若者たちを育てることを目的としています。

- 事業予定

- ・ウニ駆除
- ・ウニめし(下関郷土料理)で昼食
- ・ビーチラン
- ・スイム
- ・サーフトレーニング
- ・ボードレスキュー訓練
- ・水上オートバイを使つてのレスキュー訓練

- 事業実施場所:角島大橋下ビーチ

- 開催日:平成 29 年 11 月 13 日(月曜日)、19 日(日曜日)、26 日(日曜日)

- 時間 :各 9:30~16:00

#### 4-2. 実績報告

##### <当日の参加人数>

オーシャンマントレーニング 参加者 大人のべ 35 名

スタッフのべ 11 名

##### ○事業を実施しての感想

今回の参加者のほとんどが 20 代前半の世代ということで、手始めにヒアリングを行いました。そこで、わかったのは彼らは海や川で自由に泳ぐことを多くの場所で禁じられてきた世代だということです。したがって、本事業のスタートは海の楽しさを感じてもらうことに重点を置き、後半になるにつれて少しずつ厳しいトレーニングを交えていきました。

彼らの多くが消防士や海上保安庁の職員を目指していることもあり、トレーニングを通じてモチベーションが上がりそのうちの 6 名が 2018 年春のライフセーバーの資格取得にチャレンジすることになりました。2018 年の夏は彼らとともに海水浴の安心安全を提供できることを楽しみにしています。

＜ウニ駆除⇒ウニめし試食＞



＜ビーチラン+スイム＞



＜ボードレスキュー訓練＞



＜サーフトレーニング＞



＜PWC レスキュー訓練＞

＜カヤックなどが座礁した時の想定＞



＜サーファーが波にのまれた時の想定＞



## 5.事業名

### 【ビーチクリーン及び野外郷土料理教室】

※ビーチクリーン及び野外郷土料理教室は角島っ子クラブのプログラムに組み込む形で行いました。

#### 5-1. 事業概要

- 目的

ビーチクリーンをすることで美しい海を守る心を養い、野外プログラム(野外郷土料理教室)を通して、子どもたちの災害に遭遇した時に対処する力(サバイバル能力)を育むことを目的としています。

- 事業予定

- ・角島コバルトブルービーチクリーン
- ・角島大浜海水浴場ビーチクリーン
- ・火おこし体験
- ・流木を利用した瓦そば(下関郷土料理)で昼食

- 事業実施場所:角島コバルトブルービーチ及び角島大浜海水浴場

- 開催日:平成 29 年 7 月 1 日(土曜日)

- 時間 :9 時~15 時

#### 5-2. 事業報告

事業報告.1の【角島っ子クラブ】に付随しています。

＜当日の参加人数＞

ビーチクリーン参加者 38 名

NPO スタッフ 6 名

## 6.事業名

【角島トレッキング】

### 6-1. 事業概要

- 目的

角島にはコバルトブルーの海や白い砂浜だけではなく、その他地上にも魅力的な場所がたくさんあります。トレッキングを通して角島を地質学的観点や生物学的観点から、その魅力を探りブラッシュアップすることで閑散期である冬の新たな観光資源として発掘することを目的としています。

- 事業行程

・角島コバルトブルービーチ発⇒角島大浜海水浴場



- 事業実施場所:角島コバルトブルービーチ及び角島大浜海水浴場
- 開催日:平成 29 年 7 月 1 日(土曜日)
- 時間 :9 時～15 時

## 6-2. 事業報告

今回行った角島トレッキングは、コバルトブルービーチから大浜海水浴場までの砂浜、磯及び丘などの自然ルート歩く“トレッキング・アクティビティ・プログラム”です。このプログラムを実現させるため、2つの事前準備を行いました。1つ目が「つのしま自然館」の協力を得て、生息する生物や植物類、ルート箇所に見られる洞窟、島民から“ちりぽとん”と呼ばれている断崖の名所ポイントの由来などの調査をしました。2つ目に、参加者が安全に歩けるよう、危険箇所のチェックやリスクマネジメントのシミュレーションを行いました。

また、トレッキングルートは、島の中でも聖域箇所となるので、漁業組合長から許可を頂く必要がありました。

参加者のうち島民の方たちからは、普段見る事の出来ない自然ルートからの光景に驚きの声が上がりました。

本事業を通して、将来的に角島トレッキングを閑散期の観光資源として活用することの可能性を見出すことが出来ました。また、そのためには角島の地質学的な生い立ちに関する知識(角島には火口が存在し柱状節理のように世界的にも希少な地形が存在する)や植物(ダルマ菊をはじめとする珍しい植物が存在する)に関する知識を学ぶことが重要だということがわかりました。これからは角島自然館との更なる連携を活かし、当法人のメンバーのうち自然観察指導員の2名を中心にそれらについて学んでいこうと思っています。

<角島トレッキング①>



<角島トレッキング②>



<角島トレッキング③>



<オリエンテーション>



<トレッキング>



<トレッキング マジックアワー>



<トレッキング 大浜>



<角島灯台>



## 7.事業名

【スノーケリング教室】

### 7-1.事業概要

- 目的

スノーケリングを安心安全に事故のないように楽しく使いこなすとともに、子どもたちに地元  
の海の美しさを知ってもらい、次世代を担う子どもたちの郷土愛の醸成を育むことにつながる  
ことを目的としました。

- 事業予定

- ・スノーケリングの方法、危険回避方法(PFD 活用方法)の指導
- ・グループスノーケリング、マリンガイド

- 事業実施場所:ホテル西長門リゾートビーチ

- 開催日:平成 29 年8月 11 日、12 日

※9名の参加申込みがありましたが、天候の影響により両日とも中止となり ましたので、  
別日(19 日、20 日)に開催しました。

- 時間:①10:00~10:30 ②13:00~14:30

### 7-2.実績報告

初めてスノーケリングをされるお子様がほとんどであったため、まずは PFD 講習により  
危険回避の手段について説明をしました。総じて身に着けるのが早かったためスムーズにスノーケ  
リングの説明に移行することができ、最終的にはクロガゼの駆除にチャレンジするお子様もいまし  
た。一件の事故もなく無事に事業を終了することができました。

<スノーケリング教室①>



<スノーケリング教室②>



## 8.事業名

【サーフィン、SUP 等の講習他】

### 8-1. 事業概要

- 目的

海の体験プログラム(サーフィン、SUP、クリアカヤック、水上サイクリング、シュノーケリング)を新たな観光資源として発掘するとともに角島周辺の海の美しさを世界に発信していくことを目的としました。

- 事業予定

- ・サーフィン
- ・SUP
- ・クリアカヤック
- ・水上サイクリング
- ・シュノーケリング

- 事業実施場所:角島大橋下ビーチ、ホテル西長門リゾート前ビーチ

- 日時:2017年5月1日~2018年3月末日

※4月1日より約一ヶ月をかけて器材の購入をしました。

※水上サイクリングについては、輸入が遅れ11月1日からの導入となりました。

- 時間:

### 8-2.実績報告

SUP+サーフィン	のべ 176 名
クリアカヤック	のべ 236 名
水上サイクリング	のべ 10 名
シュノーケリング	のべ 221 名
バナナボート	のべ 176 名
合計	のべ 819 名

### 8-2 事業実績報告

開始直前になって保険加入(お客様の傷害保障+当法人の損害賠償保険)の必要性を感じるなどいざ、事業を実施するにはさまざまな課題が浮上しました。

また、水上サイクリングについては、輸入時期が大きすぎてしまい繁忙期を逃したことはとても残念でした。

その他 HP の作成やパンフレット制作などさまざまな PR 方法が考えられる中で、スマホでも容易に予約申し込みができるシステムの構築が必要になりましたが、なかなか思うようにはかどりませんでした。これらの課題については 2018 年 1 月~3 月の閑散期にかけて必死で取り組み 4 月 1 日

よりシンプルで分かりやすい HP を導入することができました。  
今年度の売り上げが大きく増加することを期待しています。

<サーフィン>



<クリアカヤック>



<SUP>



<水上サイクリング>



## 9.事業名

【海で働くことの魅力を感じてもらう体験】

### 9-1. 事業概要

- 目的

水産物の減少が課題とされている一方で、漁業従事者の中には獲る漁業から魅せる漁業への転換を切望する方たちの少なくありません。その中で漁業自体の魅力を一つの体験としてブラッシュアップするとともに、より多くの方たちに海で働くことの魅力を感じてもらうことを目的としました。

- 事業予定

- ・船の上からイソミ体験
- ・ウニとり体験
- ・ウニ割体験
- ・ブドウ網漁体験

- 事業実施場所: ホテル西長門リゾート前ビーチ

＜船の上からイソミ体験＞

- 日時: 5月20日、27日
- 時間: 14:00～17:00

＜ウニとり体験＞

- 日時: 6月～11月 計24回

＜ブドウ網漁体験＞

- 日時: 6月11日 1回

＜ウニ割体験＞

- 日時: 7月～11月 計20回

## 9-2 事業実績報告

本取り組みを巡って、私たちは体験する方たちが目を丸くして感動する様子を目の当たりにしてきました。しかし、そればかりではなく体験を準備する漁業従事者にも変化が現れたのを感じています。事業の実施後漁業従事者たちが、自らの仕事に誇りを取り戻したようなすがすがしさを感じたように見えるのはとても嬉しく感じました。

これらの取り組みを、今後さらにブラッシュアップしつつ、PRし収益事業に結びつけていくのが今後の課題です。

<イソミ体験>



<ウニとり体験>



<ブドウ網漁体験>



<ウニ割体験>



## 10.事業名

【海で繋がる郷土料理教室と新たな郷土料理の開発】

### 10-1. 事業概要

- 目的

駆除対象種のムラサキウニ(クロガゼ)を使って新しい魅力的な郷土料理の開発に取り組むこと目的としました。

- 事業予定

- ・うに卵かけご飯の商品開発+試食
- ・うにく井の商品開発+試食

- 事業実施場所:ホテル西長門リゾート内敷地

＜うに卵かけご飯＞

- 日時:10月15日、11月5日、12月20日
- 時間:10:00~15:00(ウニとりを含む)

＜うにく井＞

- 日時:1月15日、2月12日、3月18日
- 時間:10:00~15:00(ウニとりを含む)

### 10-2 事業実績報告

2017年6月にムラサキウニの駆除を開始した際は、割った身はほとんどありませんでしたが、毎月駆除を繰り返してきました。漁業従事者からのアドバイス通り12月に入って身が増えてはきたものの色や味が芳しくなかったため、商品化については諦めざるを得ないかと思っていました。寒さはあるものの閑散期であるため頻りに駆除を繰り返していくうちに身の色に変化が現れたのにはとても驚きました。しかし、試食ではなく実際に商品として提供することを実現するためには衛生基準を満たした厨房の必要性等新たな課題が浮上してきました。現在、私たちはこれらの課題をクリアするために尽力するとともに、今後より良い商品化に向けて邁進して行こうと思いを新たにしているところです。

<うに卵かけご飯>



<うにく井>



<試食会>



## 11.事業名

【海岸で繋がる広域交流会(仮称)の創設と運営】

### 11-1. 事業概要

- 目的

漂着ゴミ問題、水産物の減少、空き家問題、耕作放棄地問題などの多くの地域課題をコレクティブインパクトによる解決することを目指しています。

※コレクティブインパクトとは

- ・立場の異なる組織(行政、企業、NPO、財団、有志団体など)が組織の壁を越えて

- お互いの強みを出し合い社会的課題の解決を目指すアプローチのこと

- ・例えば、これまでの連携が産、官、学であったとしたら新たに金融が加わるなどの新しい取り組み

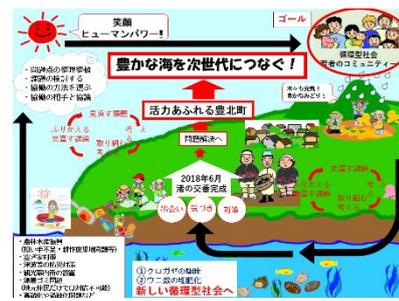
- 事業実施場所: ホテル西長門リゾート会議室

- 日時: 2月15日

- 時間: 午前 11:00~12:30

### 11-2 事業実績報告

第1回渚の交番プロジェクト推進協議会の開催を皮切りに委員それぞれがメール等でやり取りをしながら、役割分担をしました。その後、事業計画を策定し地域課題のうち、空き家の利活用に関してその実施に向けての体制構築などを巡りワークショップを繰り返し行っていくことなどが決まっており、次回開催は4月25日を予定しています。



<地鎮祭>



<第1回渚の交番プロジェクト推進協議会>



<渚の交番プロジェクト推進協議会メンバー表>

渚の交番プロジェクト推進協議会参加者 敬称略

山口県漁協豊浦支店運営委員長	西島 正明
豊北町観光協会会長	庄町 隆治
下関市豊北総合支所長	宮川 弘
山口県立豊北高等学校校長	竹村 和之
下関市議会議員	吉田 真次
公立大学法人下関市立大学 事務局長 ※元下関市総合政策部部長	砂原 雅夫
(株)EECL代表取締役 ※NPO法人コバルトブルー下関L.S.C 顧問	城下 隆
山口県有機JAS認定普及推進協議会 代表 ※元権光学院大学学院長	岡崎 新太郎
(株)海鮮舎代表取締役 ※NPO法人コバルトブルー下関L.S.C 理事	新名 文博
事務局	NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブL.S.C 副代表 藤岡由行 事務局 松本伊織

<役割分担>

西島 正明	県漁協豊浦支店 運営委員長	漁業推進
庄司 隆治	観光協会会長	地元観光推進
宮川 弘	下関市豊北支所長	耕作放棄地等地域課題のデータ収集と地域住民との折衝
竹村 和之	豊北高校校長	地元高校生への教育推進
吉田 真次	市議会議員	地元住民との折衝
砂原 雅夫	下関市立大学	知見者
城下 隆	NPO顧問	代表者
岡崎 新太郎	協議会委員	農業推進
新名 文博	NPO代表	事業推進責任者
藤岡 由行	株式会社海研舎	漁業推進関連の遂行
松本 伊織	株式会社海研舎	漁業推進関連の遂行

<事業計画表>

目標項目	現在 (平成29年度)	1年目 (平成30年度)	2年目 (平成31年度)	3年目 (平成32年度)
ムラサキウニを使った 加工品開発及び市場開	試作品:0	試作品数:1 試食:1回	試作品数:2 試食会:1回	商品化及び販 売
耕作放棄地を活用した 営農体制構築のためのワークショップ開催	ワークショップ 0回	ワークショップ 6回	ワークショップ 6回	営農組織体 設立
HP及びSNSを活用した 情報発信	HP立上準備	HP・SNS開設	ネット環境構築 のための協議	ネット環境構築 のための協議
空き家利活用のための 体制構築	空き家軒数 67軒	空き家持ち主 把握+折衝	第一期空き家の改 装+活用事業開始	第二期空き家の改 装+活用事業開始